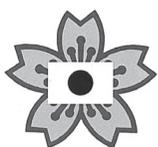


国防は最大の
福祉である
初代会長 高橋季義



國の支え

中井信夫元大阪府議会議長

関西防衛を支える会
(略称・関防会)
〒542-0081
大阪市中央区南船場3-11-10
心齋橋太陽ビル7階
TEL 06-6241-1124
発行人 濱野晃吉
編集人 新川貞敏
印刷所 (株)新聞印刷

第61号

(新年号)

平成27年1月1日(木)

(皇紀2675年)

(大正紀元104年)

(昭和紀元90年)



新年あけましておめでと
うございます。昨年も弊会
の自衛隊支援活動が高く評
価され、海上自衛隊呉地方
總監から感謝状が授与され
ました。お陰様で会員数も
年々増加しており、これも
偏に皆様方の温かいご支援
の賜物と心から感謝申し上
げます。

新年のご挨拶

会長 濱野 晃吉

昨年12月の衆議院選挙で
は弊会が応援した小池百合
子、高市早苗、稲田朋美、
左藤章、山田賢司各氏が当
選され、西村真悟、三宅博、
田母神俊雄、杉田水脈、畠
中光成各氏は落選し残念な
結果となりましたが次回に
向けて頑張ってもらいた
い。弊会はこれからも、こ
れらの方々をしっかり支援
していきたくと思えます。

年「領海法」を制定し、日
本固有の領土である尖閣諸
島を自国領と明記した。平
成22年には「国防動員法」
を施行させ、尖閣諸島は中
国の「核心的利益」である
として、日本の領海、領空
侵犯を繰り返している。平
成24年11月15日習近平総書
記が誕生した。就任後「民
族の偉大な復興」演説を行
った。

経済協力会議(APEC)
首脳会議において、習主席
が提案した「太平洋は米中
2つの大国を受け入れる十
分な広さがある」とする新
型大国関係を求めたのに対
し、「同意する」と表明した。
いま日本や他国に対し脅
威を与えている中国に対
し、安倍首相は日中首脳会
談前に世界49カ国を巡り、

200回以上の首脳会談を
行った。安倍首相は海にお
ける「法の支配」を説き、
各国の関係を強化し、日本
の発言力、発信力を高め、
この2年間の地球儀を俯瞰
(ふかん)する外交努力に
より「日中関係で異常なの
は中国の方だ」という認識
が世界で共有された。
また、昨年6月のベル

ギーにおける先進7カ国首
脳会議では、オバマ大統領
が安倍首相にハグするまで
日米関係は改善された。7
月オーストラリア訪問では
アボット首相と「日豪が特
別な関係」であることを確
認し、両国関係を「準同盟
関係」に引き上げた。11月
にはインドのモディ首相と
の会談で「日米印、日米豪

の協力を確認している。
これは、日米豪印を菱形に
結びつける「安全保障ダイ
ヤモンド構想」とつながる。
この構想は南シナ海で問題
をかかえるフィリピン、ベ
トナム、マレーシア、イン
ドネシアとの連携にも広
がっている。さらに国内に
おいては集団的自衛権を容
認する閣議決定を行い、特
定秘密保護法を制定し、武
器輸出三原則の見直しを
行った。その上で50カ国目
の訪問国として中国を選ん
だ。中国は首相の靖国神社
不参拝の確約を求めたが、
日本側が「それなら会談し
なくてよい」と断ったこと
ろ、あっさり折れてきたと
いう。会談では習主席はそ
れまで執拗に続けてきた靖
国神社参拝問題も、尖閣諸
島問題も一切言及しなかつ
た。安倍首相は中国に何ら
譲歩することなく首脳会談
を実現した。安倍政権は美
に立派である。このたびの
選挙で大勝利を得たが、こ
れを機に、自主憲法を制定
し、自衛隊を国防軍にし、
防衛力を強化整備し、中国
に間違いを起させないこ
とが大仕事である。この安倍
政権を弊会はしっかり応援
していきたい。

今年4月には天皇、皇后
両陛下が慰霊のためパラ
オ、ペリリュー島を訪問さ
れる。関西防衛を支える会
も本年11月にパラオ、ペリ
リュー島慰霊の旅を企画し
ている。あらためて案内し
ますので皆様のご参加を宜
しくお願ひします。

関西防衛を支える会は、
日本人が本来持っている大
和魂を覚醒させ、愛国心を
もって自らの国は自らが守
る草根運動であります。本
年も変わらぬご支援、ご協
力をお願い申し上げますと
ともに、皆様のご健勝、ご
多幸を祈念申し上げます
新年の御挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

新年明けましておめでと
うございます。関西防衛を
支える会の皆様方におかれ
ましては、輝かしい新年を
お迎えのこととお慶び申し
上げます。

旧年中の、方面隊諸行事
に対するご協力、並びにそ
の他の中部方面隊の活動に
対するご支援に、心から御
礼申し上げます。

さて、現在の国際情勢は、
多極化が進行する中、多く
の安全保障上の課題に直面
しており、特に、北東アジ
ア地域においては、挑発的
な行動を繰り返す北朝鮮を

はじめ、力による現状変更
を試みる中国や活発化する
ロシアの動向により、我が
国を取り巻く安全保障環境
は一層緊張感を増していま
す。また、国内にあっては、
南海トラフ巨大地震が予期
される等、大規模災害等の
備えの重要性が改めて認識
されているところであります。

我々は、これらの事態に
的確迅速に対応するため、
国民の生命・財産を断固と
して守り抜くという強い信
念のもと、実効的な訓練を
積みあげ、実力を蓄えるこ
とが重要と考えてお
ります。

中部方面隊は、昨年
8月に発生した広島
県集中豪雨等の災害
派遣、アフリカにお
ける南スーダン安定化
ミッション(UNMI
C)等において、
S/S等の的確に対応して
その任務を達成いたしまし
ました。また、我が国への武力
攻撃を想定した訓練を積み
重ねるとともに、蓋然性の
高い南海トラフ巨大地震を

想定し、「南海レスキュー」
災害対処訓練を行う等、各
種事態等への対応能力を向
上して参りました。
本年も、中部方面隊は、
何時如何なる任務が与えら
れようとも、任務に即応し
てこれを完遂し得る「真に
戦える組織」であるがごと
く、「責務を完遂し得る強
靱な部隊を育成し、各種事
態等への対応に万全を期
す」との信念を貫き、より
一層緊張感をもって日々の
隊務に邁進する所存です。
最後になりましたが、関
西防衛を支える会の益々の
ご隆盛と会員皆様方のご健
勝を祈念申し上げ、新年の
ご挨拶とさせていただきます。

一層緊張感をもって

中部方面総監 山下 裕貴



す。また、国内にあっては、
南海トラフ巨大地震が予期
される等、大規模災害等の
備えの重要性が改めて認識
されているところであります。

我々は、これらの事態に
的確迅速に対応するため、
国民の生命・財産を断固と
して守り抜くという強い信
念のもと、実効的な訓練を
積みあげ、実力を蓄えるこ
とが重要と考えてお
ります。

中部方面隊は、昨年
8月に発生した広島
県集中豪雨等の災害
派遣、アフリカにお
ける南スーダン安定化
ミッション(UNMI
C)等において、
S/S等の的確に対応して
その任務を達成いたしまし
ました。また、我が国への武力
攻撃を想定した訓練を積み
重ねるとともに、蓋然性の
高い南海トラフ巨大地震を

想定し、「南海レスキュー」
災害対処訓練を行う等、各
種事態等への対応能力を向
上して参りました。
本年も、中部方面隊は、
何時如何なる任務が与えら
れようとも、任務に即応し
てこれを完遂し得る「真に
戦える組織」であるがごと
く、「責務を完遂し得る強
靱な部隊を育成し、各種事
態等への対応に万全を期
す」との信念を貫き、より
一層緊張感をもって日々の
隊務に邁進する所存です。
最後になりましたが、関
西防衛を支える会の益々の
ご隆盛と会員皆様方のご健
勝を祈念申し上げ、新年の
ご挨拶とさせていただきます。

左・濱野会長、右・竹本顧問



瑞宝小綬章受賞

竹本恒雄 顧問

弊会の竹本恒雄顧問が平
成26年秋の叙勲に瑞宝小綬
章を受賞されました。11月
7日、天皇陛下に拝謁の栄
誉を賜り感激の極みであつ
た、と語り会員の皆様に感
謝と共に今後とも宜しく御
指導をお願いいたします、との
伝言がありました。



関防会の歴史勉強会 中島サロンのご案内

第53回

第54回

日時 平成27年2月21日(土曜日)
午後4時から
講師 三好榮治氏(防衛大学校19期・元陸将補)
昭和26年愛媛県生まれ、平成10年第37普通科連隊長、平成13年中部方面人事部長、17年第4師団副師団長、18年小平学校副校長
演題 もし自衛隊が戦えば・・・
レンジャー資格取得者とは思えぬ現在の体型だが、贅肉がついた分、比例して貫禄と軍事知識は一段と豊富になった

日時 平成27年4月4日(土曜日)
午後4時から
講師 佐藤 守氏(防衛大学校7期・元空将)
昭和14年樺太生まれ、戦闘機パイロット、外務省国連軍縮室に外向
三沢・松島基地司令、南西航空混成団司令等を歴任
演題 東南アジアの戦力分析
剣道5段、絵画の腕はセミプロ、著書多数の文武両道の人
飛行3800時間の戦闘機乗りの分析は鋭く、乞うご期待

第18回・関西防衛を支える会 定時総会の御案内

日時 平成27年4月26日(日)
会場 ホテル・グランビア大阪
大阪駅直上22F
総会 14:00~14:45
講話 15:00~16:30
講師 加地 伸行氏(阪大名誉教授)
懇親会 17:00~19:00

会場 錦城閣 ☎06-6941-2185
地下鉄谷町線、京阪電車天満橋駅直上
キャッスルホテル3F(中国料理店)

会費 5,000円(含む飲食代)
40才未満は3,000円(含む飲食代)
学生は2,000円(含む飲食代)

関防会歴史勉強会

中島サロン

第51回

10月18日

始めに

今、「子育ても終わり、これからはゆっくりと生活を始める主婦が、立ち上がり活動を始めて10年」と紹介されましたがその通りで御座います。

私はこの運動を平成16年に僅か5〜6名で運動を立ち上げました。それは、昭和40年に日韓基本条約が結ばれたまでは「竹島」は地元の新聞でさえ全く取り上げられず、それが無く「竹島さんって誰？」と隠岐ノ島の子供が、人の名前と勘違いすると言う笑えない話もあったからです。

制定の経緯

「竹島の日」はとうして「2月22日」という質問がありました。明治38年に竹島は島根県への編入が閣議決定され、その告示が2月22日という事で、平成17年がその百周年にあたることを記念して「竹島の日」を定める条例が島根県議会でも定められました。私達は、この条例を定める前から、国には竹島の日を作ることを求めていました。

国もマスコミも全く取り上げない竹島問題に、私達が何故取り組んだのか、と申しますと、それは偶然の産物のようなもので、平成15年、拉致被害者を救う会の問題が大きく取り上げられ世間の耳目を集めていたとき、私達は「島根県拉致被害者を救う会」を作って活動していましたが、選挙に絡んだ事で本部から除名されました。その時、ある神社の方から島根県民だから「竹島の問題」をやらなきゃダメだよ、と言われました。

その時分、『SAPRO』(サビオ)という雑誌の日本の領土を守るために行動する議員連盟の方々が「竹島切手」の発行を郵政公社に申請したら拒否された、という記事を読んで、日本は竹島の切手一枚も発行できないのだ、と知り愕然としました。それで義憤を感じて「竹島奪還運動」を立ち上げたのですが、なにせ素人集団、どこから手をついたら良いのか分からないままでしたが、主人が新聞社に勤めていたので、マスコミ関係、県議会関係の先生とかに陳情したら、とアドバイスをくれました。

国会議員動く

そこで「県土・竹島を守る会」発会の集会を開いたところ県議会を始め漁業関係者の方々が大半に参加して下さいました。県下の漁業組合長とか理事長が勢揃いして下さいました。その時、国会議員の先生にメッセージを頂いたらどうか、となり電話番号を調べて直接お願いしたら、「日本の領土を守るために行動する議員連盟

の森岡先生や西村真悟先生がメッセージを下さいました。驚いたのは島根県知事からもメッセージが来たのです。異例の事だったので、それを新聞が報道してくれて、地元の新聞と産経新聞は全国版で報道してくれました。その結果、全国から問い合わせがあり、入会したいと、ごんごん電話が掛かって来て現在北海道から沖縄まで約千名弱の方が会員になって下さったのです。陸軍士官学校の方が集団で入会して下さり募金活動なども手伝って下さり、本当に年配の方々に支えられてやって来たなと思います。

最近では若い人達も入って来られるようになりましたが、活動している者は仕事を持っている者なので、県外に呼ばれて活動するのは難しいのですが、それでも毎回5〜6名の者が遠くに行ったり、応援者の活動を手伝ったりとアピールをして来ました。それとは別に私達が力を入れているのが政治家へのロビー活動です。何としても政治が動かなければ竹島は帰ってきません。第二次安倍内閣が発足したとき、山本一太さんが領土担当大臣

日本の領土・竹島

県土・竹島を守る会 事務局長 梶谷 萬里子

になられ、企画調整室という担当部署が出来たのも、私達が係わってきた議員さんの尽力があったのでは、と思います。

韓国が大騒ぎ

何故島根県が「竹島の日」条例を制定したかと言うと、私達が平成16年5月に会を発足させ、9月に松江市内を「知事を先頭に竹島奪還運動」と称して、デモ行進をして知事に要請書を提出したのです。国は中々腰を上げませんから、だったら県が条例を制定してくれとの要望書です。9月に出して翌年の3月には条例制定が決まる事になるのですが、県が突然に私達の要望書を取り上げてくれたのかと言うと、県議会も遡ること2年前に竹島領土確立議員連盟を作っているのです。それで民間の方から上がって来たという事で、これ幸いと渡りに舟と言ったことではないでしょうか。

島根県議会が竹島の日制定となった時マスコミや韓国が大騒ぎを始めました。外務省の方もあからさまな圧力ではありませんが、島根県が条例で竹島の日を制定して何になるんだ、と云った意味を含めた書面が送られて来て、県議会の方では色々あったようです。全国から

「島根県カンパレ」と言うメールが二千通届いたそうです。それで県議員連盟の皆さんも、これはどんなに圧力があろうとも条例制定するぞ、と意を強くされたのです。3月に決定されて5月には発効するのですが、私達のような小さな団体が、国がダメなら、まず県でと推進したことが制定のひとつの切掛になった、と言う事でそれなりの評価をして貰っています。

教科書に反映させる

韓国からの反発は相当キツイものがあるし、県内外のマスコミが私のところにも来ました。しかし、県がいくらやってもこれは国の懸案事項な訳ですから、国会議員の先生が動かないとミミリだつて先に進みません。

当時、教科書採択問題が大きな話題になっていました。私達は竹島の記述がきちんとなされていく教科書を採択して下さいと請願書を県議会に出したのです。その請願書が通ったのです。県議会の先生方と文言の擦り合わせをして皆さんが賛成しやすいように作りました。それで、島根県は、竹島の記述のしっかりしている教科書を採択したので、県の方でも全国の教科書会社を回り竹島のしっかりとした記述をお願いしてあります。

領土問題のエキスパート

最初の接触はいつも手紙なんです。それに返事を下さる先生のごとくに尋ねて行く。いくら手紙を出しても返事のない先生もいらっしやるわけですね。西村真悟先生もちゃんと返事を下さいました。新藤義孝先生は前総務大臣ですが面識のない時にも国会で2日間も渡って竹島問題を質問して下さいました。たまたまネットで見て、すぐにお手紙を出して電話をしました。私達は年一回〜二回は上京して国会議員のところを廻って竹島問題を陳情していただきますから、その時新藤先生にお目にかかったのです。本当に熱心で親身になって領土問題に取り組んで頂いた訳です。

竹島問題に詳しい拓殖大学の下條正男先生が領土問題でマラントークというものを大学で主催されていますが、島根県からも総務課長や県議員が数名参加するのです。そういう席に新藤義孝先生は国会議員として初めて来て下さった。そして、島根県では竹島問題に関する10のポイントという冊子をつくるのです。これは画期的なことで、北方領土に関しては沢山出ていますが竹島は初めてでした。それは鈴木宗男議員が北方領土の冊子はあるのに、竹島は何故無いのだ、の質問主意書が端緒になっています。10ヶ国語に訳して外務省が出すのは本当に意義のあることだと思います。

講演中の梶谷萬里子事務局長



国際法上も歴史的にも日本の領土という鉄壁な理論武装をしています。その研究成果を政府に提出する。その成果がベースとなって、やっと外務省が「竹島問題」を考える10のポイントという冊子をつくるのです。これは画期的なことで、北方領土に関しては沢山出ていますが竹島は初めてでした。それは鈴木宗男議員が北方領土の冊子はあるのに、竹島は何故無いのだ、の質問主意書が端緒になっています。10ヶ国語に訳して外務省が出すのは本当に意義のあることだと思います。

領土問題担当大臣の誕生

下條先生が国会の参考人招致で意見陳述をされました。歴史問題(韓国ドラマ)でNHKを批判されていた。私達の下條先生が国会議員の方々の知を得られて、第二次安倍内閣が誕生した時、山本一太領土問題担当大臣の私的な懇談会にお入りになられた。安倍改造

内閣では山谷えり子先生が拉致担当大臣、領土問題担当、防災担当となられたが、領土の方はあまりアピールがされていないので心配はしています。また山谷先生に陳情に行きたいと考えていますが、それは島根県で発信しても浸透力がないものから、やはり東京で全国的な発信をしなければならぬ、と考えるからです。3年前には島根県選出の亀井亜希子議員が、永田町で集会をやろう、と言って下さったのです。県にも要望書を出して呼びかけたのですが、県外でやるのは大変なことなんです。それで東京の保守系団体と協力して領土奪還の集会を開きました。その時に山谷先生、新藤先生、亀井先生、浅野先生が出席して下さいました。そして島根県選出の3名の議員から連盟でメッセージを頂いた、これは画期的なことなんです。

韓国は価値観を共有する国では無い

そして、一昨年の民主党政権下で第一回の「竹島問題早期解決を求める会」という集会を東京の憲政記念館で開催、そのとき初めて政府関係者が出席してくれました。外務副大臣と首相補佐官です。会場は五百名ほどの九百名の申し込みがあつてマスコミにも報道されました。この集会で担当大臣を作れ、政府主催の式典をやれ、閣議決定せよとかの決議がなされました。共産党を除く全議員が参加してオールジャパンでやりました。

そして、安倍内閣になり領土担当大臣ができて担当部署もできたから、このまま終わらせる事はできない、という事で二回目の開催を目指して昨年県会議長に陳情しました。その様子が新聞に載り、証拠が残りますからやらなきゃならない。議長は島根県選出の議員に、これをやらないと、次の選挙ないぞ、というように勢いで言われたのです。それで今年の6月に地元選出の議員さんの尽力で第二回の集会が開かれました。領土担当大臣の後藤田さんが参加して下さいました。政府関係者に対して残念に思うのは、韓国は決して自由と民主主義の価値を共有する国ではないのです。それなのに共有するとのフレーズを使うのです。

韓国はこのごろの様子を見ていると、決して価値を共有する国ではないと国民は見ています。竹島東京集会で私達が要望した事は実現して頂いているのですが、今年の大会で鈴木宗男先生が言われた事にすべて集約されます。それは竹島の特命大臣、そして内閣官房ではなく、内閣府に対策部署を設ける、と強く強調された事です。これまで10年間一緒に運動してきた主人が6月に突然亡くなりました。竹島問題をやっている、おしり夫婦と呼んで頂きましたが、長患いもあったのですが、亡くなって最初に人前で講演するのは、この関西防衛を支える会が初めてであります。今日は皆様拙い話を聞いて下さり、本当に嬉しく、有り難う御座いました。

昭和史証言録

中学4年生になって陸軍経理学校を応募。手応えはあったものの合格通知は来ず。5年生になって再度陸軍経理学校に応募、一次試験突破、面接試験のため上京したが、12月に陸経ではなく満洲国士官学校に応募しないかとの通知があり、大阪第四師団で最終面接の連絡があり大阪へ。面接の後、誓約書提出、指紋採取があり午後になって解放、時に昭和19年12月8日。時間待ちのため、当時映画鑑賞が禁止されていたので映画を覗いて帰ると「雷撃隊出撃」のタイトルの映画館へ。入った途端に大地震、東海大震災だった。

感動の家族愛

間もなく次の連絡があり、乗るべき列車と時刻・行動の指示があり最終目的地は九段下の軍人会館(現九段会館)。東海道線不通のため中央線経由で東京へ。京都、名古屋と経由するたびに少くも一、二人員が増加していった。ここ東京で士官学校の編成が組まれた。整列して制服、制帽、編上靴、外套などが支給され、陸軍大臣に申告の後、宿舎へ。

宿舎は、神田・神保町の日本旅館。その晩もB29の襲来があり、サーチライトに照らし出された機体は美しくかった。同区隊(小隊)となった小穴敏雄君の姉さんが見送りに来ていたが区隊員31名の外套を持って外へ。その当時人手不足もあり支給された新品の外套は裾が裁断されたままで縫ってなかった。彼女は徹夜で、それを手縫いにかけて早朝出発に間に合うように持参してくれた。感動の家族愛を見た。

満鉄「ひかり号」で新京へ

いよいよ東京出発、理由は不明だが呉線経由。海側のブライランドを降ろすよう指示があり、夕刻下関到着。ここで若干の軍医生徒、獣医生徒を拾って投宿。昼前に関釜連絡船に乗船、流石に玄界灘、うねりで大きくゆれる甲板で足を踏ん張ってカレーライスの昼食。敵艦の攻撃もなく無事に時刻釜山入港。大陸横断の満鉄「ひかり号」に乗車。我々区隊の車両は最後尾で、発車後判明したがこの車両はスチーム故障で暖房なし。時は12月まるまる冷凍室、覆られたものではない。トイレもカチカチに凍っている。北上を続け、京城・平境を過ぎると流石に睡魔に勝てず、いつの間にか鴨緑江を渡り満洲に入っていた。

新京駅には迎えのトラックが来ていて直ぐに乗ったものの編上靴では足が凍りそうだし、支給された外套では寒すぎる。約1時間後、新京郊外の士官学校到着、国内応募の軍医・獣医生徒も合流、生徒舎はスチームが利いていた。直ぐに防寒外套、防寒手袋、防寒靴支給される。武器受領、銃は99式長銃、日本軍でも極一部にしか配備

されていない物。午前中は、學課(座學)満語・数学・歴史等)、午後は術課(馬術・戦技・武道、武器取扱等)、馬術では冬季に鎧(アブミ)に深く足を入れ過ぎると落馬した時に靴が脱げなくて引きずられるから注意等が印象に残った。号令は日本語だった。

少くも学校生活に慣れた頃、全校で野狩りがあった。我々は木銃を手に防寒衣装で陣を組み、中央に向かって勢子となり、満系本科の騎兵候補生が馬を飛ばして狩りたてる。大々的だにも拘わらず獲物はキツネ3匹、ウサギ10数羽だった。

4月になり黄砂の季節。防塵眼鏡なしでは外に出られない。それに室内よりも温度が高い、それは黄砂同士の摩擦熱だ、銃の手入れも大変。暫くして雨、今度は一面の泥濘、どこまでも続く泥濘みぞの軍歌「討匪行」の歌詞のまま。

次第に訓練は厳しくなり、5月末第一回の野営演習、1個区隊収容の露天幕は人イキレで蒸し暑い、夕食後に見つけた鈴蘭の花を2、3輪持ち込んだら大分落ち着いた。酷暑の中の夜間戦闘訓練、大汗をかきながらの葡萄前進ではヤブ蚊に手古する。8月第二回の野営訓練は耐熱訓練でもある、水筒は直ぐに空になり路傍の水田の水を飲む者も。行軍の最後は山頂に向かって突撃、締めは山頂で分列行進、この時ブツ倒れる者もあった。

満洲國とシベリア抑留

満洲國軍官学校7期生 後藤 文夫(87才)

夕食休憩後、夜行軍で帰校することになったが、あいにく雨が降りだした。草原の真っ只中、闇のなか前を行く戦友を見失わないように後に続くが、然し昼間の疲れから睡魔が…。いつの間にかウトウトとしていて気がついていたら前の戦友がいない。第六感に賭ける事にして小走りに、大感の中、何とか合流できた。

ノ連軍進攻

深夜帰校、被服、武器の手入れ後やっとなら寝、明日は休暇。ウトウトして暫くした時、学校の屋上からラッパが「ヒコキダ ソラ ニゲロ」と空襲警報だ。慌てて防空壕へ…。眠くてたまらない。朝になってノ連軍の進攻と判明、緊張が走る。ノ連軍の進攻速度は予想以上で10日にはハイラルが陥ちたとの情報。この日、全満洲國軍に動員下令。午前9時、生徒隊長・満洲國軍弟・溥傑中校(中佐)は、全生徒を校庭に集め日本語で「日頃の訓練の成果を発揮しよう」と訓示を行った。更に、軍事部より学校職員生徒で諸兵連合部隊を編成すべき」と命令があり歩兵7個連隊と砲兵、工兵、輸送隊が編成された。

その当時、我々予科生徒は軍人ではないのだから、解散すべきだ…との意見もあったと聞く。更に、この日第30軍(飯田祥二郎中将・陸士20期)の指揮下に入り新防衛の任に任じられた。慌ただしい時間が過ぎて行く。被服、弾薬、食糧の受領とそれらを背嚢に整理すると同時に、まだ訓練されていない武器(重機関銃、擲弾筒等)について促成教育も実施された。8月13日朝、生徒舎前に整列、連長訓示の後、各区隊毎にお酒を廻し呑み出して陣式実施、一部を学校警備に残して出発。休日の外出と異なり弾薬が重く、新品の編上靴が足に馴染んでいないので直ぐに靴傷が出来た。

吉林街道には避難民の列が我々とは逆方向に…中には大車(ダート)に乗せられた女性が我々を仰ぎながら「お願いします」など激励していた。擲弾筒の弾薬手を命じられた私は他の人より余分な弾薬を持つ事になり、小休止でバテてしまった。やっとなら新市街地の満人居住区に到着、配備に就く。

ノ連兵の略奪暴行が始まる

8月15日、街全体が早朝から異様な雰囲気になり、知らぬは本人ばかりとか。満人たちは

三千年の歴史のなかで何度も王朝交替を体験したせい、情報に敏感で既に日本の敗戦を知っていた。あちこちで青天白日旗が揚げられていた。上空には、それまで見た事のない戦闘機が数機舞っていた事を覚えている。我々は反乱軍との交戦もなく分宿していた満炭官舎から、高等軍事学校、禁衛騎兵連(近衛騎兵)、軍事部東光寮等宿舎を転々と移動、騎兵連では血に飢えた蚤の大群に吃驚した事を記憶している。

シベリア抑留生活

抑留生活は環境整備から始まった。ペーチカこそあるものの倉庫同然のただっ広い木造三棟、板壁の間に鋸屑を断熱材として入れ、段ベットを造る。野戦工兵が活躍し、私達候補生達は何もできない。数日後、純真な候補生が兵隊から受ける影響を心配した区隊長連中の配慮で16キロ離れた山中に移動して伐採作業に従事したが、2週間ほどで医療設備の憂慮から収容所に帰還して、貨車への石炭積み込み候補生中隊が請負う。

苦難の始まり

その頃、長白山に籠ったら…と云う話もあったが補給の問題等で立ち消えになった。20日頃に盛家屯で武装解除、情けなかった。また、身寄りのある者は脱出せよ…と云

われ、一部は脱出して行った。その前に中央銀行へ行き軍官学校関係者の退職金(?)として相当数の紙幣を強奪同様にせしめて、我々にも分配された。私は1500円だったと記憶する。また鮮系の同期生4名が脱出後に朝鮮独立軍に加わり、中尉の肩章をつけて現れたのには驚いた。我々は繰り上げ卒業で生徒身分から候補生となり関東軍の隷下に入っていた。

初めての冬に700名没す

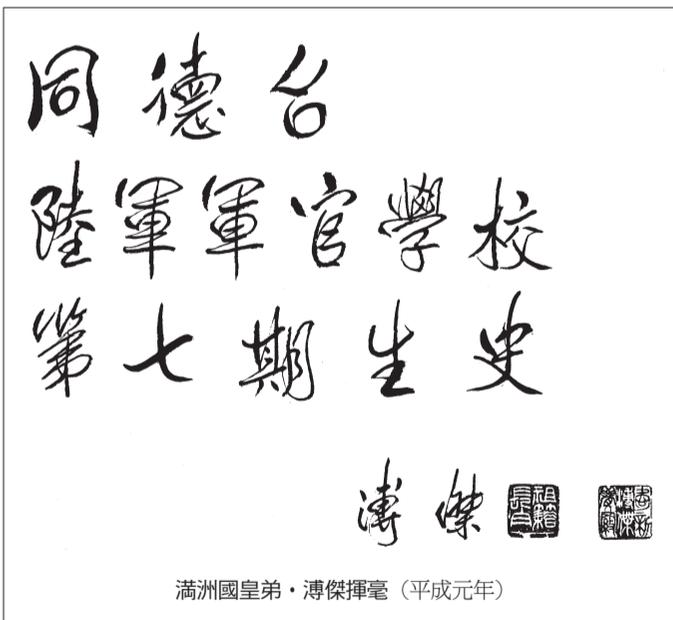
零下60度になる程の酷寒でも40度を越える高熱で脳症を起して狂態を演ずる。死者続出の日々。死者の衣服は生存者の為に利用、堅く凍結した大地は裸の死体の墓穴掘りを受け付けない。十分ある石炭を燃やしても温めた土は30センチ程掘れるだけ。当然墓標もない。昭和20年、21年へかけての冬に犠牲者が集中した。その数約700名。私も左足親指を凍傷で切断、肉が盛ってきたらピンセットで骨を抜くのだが、痛いのなんの、医薬品は消毒液だけ。春になってからも野菜不足の壊血病で足に斑点や神経痛にやられる者が続出、芽生えたタンポポ・アザミ等で乗り切る。

我々の手で所内に浴場等の設備充実、環境にも少しずつ適応して来たころ、民主化運動(共産主義の洗脳)の風が吹く。ノ連軍司令部に尻尾を振る連中による分断や一団結を誇る我々候補生中隊も、作業替えによる分断や一本釣りでチタやハバロフスクの政治学校(民主運動の中核になる者の養成)派遣等の波が押し寄せた。昭和22年春、将校(民主化運動の邪魔者として)の転属が始まり、やがて皆無となる。体力を回復した私はこの頃から炭鉱内へ。重労働・軽労働の区別基準は、ノ連軍の女医の前で全裸になり尻の肉を摘まれて決定。

帰国

9月4日、帰還列車到着。12日、ナホトカに着き収容所に入る。ここからが難関で、また西へ送り返された連中が相当数ある。第一収容所に移る。浜辺へ出て見ると沖合に帰還船が…。講和条約締結前のごとく国旗使用制限で船尾に小さな日の丸が…。胸がこみあげて来た涙が抑えきれず溢れてきた。日の丸はこんなにも美しく懐かしいものだったのか。9月16日、いよいよ乗船船名は「大郁丸」(貨物船)。

前日台風が通過した日本海は大荒れ、安堵感からか酔いもせずグッスリ眠った。9月18日早朝舞鶴入港。荒野を見慣れた目には久しぶりの美しい日本は箱庭のように見えた。19日上陸、消毒入浴を済ませて引上寮へ入り諸々の手続き、支給された手当金で、入ソ直後壊した眼鏡を眺めたら残金は殆どなし。22日東舞鶴駅発帰郷の途へ。(元全国高体連ボクシング部・委員長)



満洲國皇弟・溥傑揮毫(平成元年)

昭和16年12月8日、我が帝国陸海軍は英米との戦争に突入した。

戦いの前半では、日本軍の進出によって欧米列強の植民地解放が達成されたが、次第に米国の反撃が功を奏するようになり、我が軍は防戦一方となり、サイパン島の陥落、沖繩戦での敗北、日本本土への度重なる空襲と艦砲射撃、そして広島と長崎への原爆投下という事態に至った。この事態に日本政府は激しく動揺し、昭和天皇の「御聖断」を仰いで連合国側から提示された「ポツダム宣言」を受諾した。昭和20年8月15日に停戦となり、同年9月2日、東京湾に浮かぶ米軍艦「ミズーリ号」の甲板にて降伏文書に調印して大戦争は終結した。

戦争の性格は明らか

大東亜戦争は、戦後、連合国側によって「悪い日本軍が行った侵略戦争」ということとされたが、よくよく調べてみると自存自衛の戦争だったことがはつきりする。すなわち、米露ルーズベルト政権が日本を追い詰めたことによつて、日本は「窮鼠猫をかむ」こととなったのである。

大東亜戦争終結七十年を迎えて

監事 山本 賢一 (71才)

ルーズベルト政権は、もともと「夫や息子を戦場に送ることは絶対しない」と米国民に約束することによって成立した政権である。しかし、ナチスドイツの台頭と欧州での戦争拡大によつて、英国などから米国に対して「一刻も早く参戦してほしい」と強く要請されていた。そのため、米露政府は、まずドイツから対米攻撃をさせようという画策したがうまくいかなかった。次の策が日本から本格的な攻撃をさせることだった。我が国は、天皇陛下の御意向をくんで最後の最後まで戦争回避に努力したが、米露政府から「ハル・ノート」が提示されたことによつて「開戦やむなし」となったのである。したがって、戦争責任については、日本側だけが負うものではなく、米露政府の責任も追及されなければならぬと考えるものである。

米露政府の深謀遠慮・宣戦布告なしの対日戦スタート

最後のフロンティアとなった太平洋の覇者たらんとする米露は、「いざ日本を叩くチャンスをついに」一極東地域と西太平洋において勢力拡大する日本の動きをなんとか阻止したい」と考えて着々と準備を重ねていた。米露が日本を仮想敵国として準備し始めたのは第一次世界大戦が始まる前の1910年代だったとする説がある。私は、日露戦争による日本軍の勝利、満州に強力な橋頭堡を作ろうとした日本政府の姿勢を確認した1905年頃ではないかと考えている。

持つようになるのである。それに、ルーズベルト政権には親ソ派が多数入りこんでいたことも米ソ連携の背景として忘れてはいけない。

米露政府は、日本軍の支那国内での消耗戦を眺めつつ「支那側を支援して日本軍の軍事的膨張を抑止すれば太平洋の覇権を掴むチャンスが生まれるだろう」と考えた。英国とともに、いわゆる「援蒋ルート」を開いて猛烈に国府軍を支援する体制を作り出した。その有力な政策が「フランクリン・タイカース」の派遣だった。

蒋介石が率いる国府軍は、空軍力の強化を強く希望していた。米露の軍事使節団を受け入れ、一時、杭州に「空軍中央訓練学校」を設立してもらい、さらに、米露陸軍航空隊のクレア・シェンノート大尉を招いて、国府軍の空軍参謀長・大佐のポストに就任させた。

その後、蒋介石はルーズベルト大統領に正式に軍事支援を要請、ルーズベルト大統領は「ワシントン・中国援助事務所」という表面的には非公式の国府援助組織を立ち上げ、さらにその事務所傘下に「アメリカン・ボランティア、グループ」(AVG)という、これも表面的には非公式の軍事組織を設立した。政府公認の軍事支援会社と考えれば理解しやすい。

この「AVG」設立の目的は、日本との「宣戦布告なき戦争」を国府軍とともに遂行しようとするもので、米

自信を持つようになった。さらに、日本軍にとって厄介だったのは、日本軍という敵が強ければ支那(国府)軍は大陸の奥へ奥へと逃げて時機を待つという支那人の得意とする戦法である。

米露政府の戦略はこうだ。支那大陸で体力を消耗している日本軍を最大限支那大陸に縛りつけ、そして疲弊させる。時期を見て、日本本土への物資輸出をストップして日本軍を窮地に追い込み、日本軍から米露領土のどこかへ先制攻撃させる。そして、「日本軍の不法なる軍事攻撃」を国民に訴えて、米露の厭戦気分を払拭する。米露の巨大な工業力によって兵器や弾薬を大量に連合国側に供給し、ドイツと日本を叩きのめす。

ルーズベルト政権の遠大な戦略(謀略工作ともいえる)にはまったのが日本だった。連合国は「ABCD包囲網」を構築して、じわじわと日本経済を締め上げた。日米間の交渉は、米露の時間稼ぎに利用された。米露の参戦準備は着々と進んでいた。

ルーズベルト大統領とハル国務長官は、「そろそろ日本を窮地に追い込む仕掛けを打ち出そう」ということで、ハリ・ホワイトという名の財務省高官が起草した「日米間協定の基礎理論」(俗に言う「ハルノート」)とハル国務長官の長文のオラール・ステートメントを日本側代表である野村吉三郎駐米大使と対米交渉の全権大使

だった来栖三郎氏に手渡したのである。手渡したのは1941年11月26日だった。この時、日本海軍はずいぶん大機動艦隊を択捉島に集結させていたから、ひょっとしたら米露政府はこの動きを知っていて、タイミングよく「ハルノート」を日本に突きつけたと考えられる。

「ハルノート」が日本政府に到達したのは同年11月27日の午後だった。

このハルノートの正式名称は、英文では「Outline for proposed agreement between the United States and Japan」と書かれている。直訳すると「アメリカ合衆国と日本国との間の協定で提案された基礎の概要」ということになる。文章の中心は最後通牒でもなく、平和交渉を打ち切るという内容でもない。単なる米露政府による非公式の提案という形式である。したがって、この文章を「最後通牒」と受け取る必要はなく、再交渉の材料として米露側提案のいくつかを応諾すれば戦争をする必要はなかったように、私には感じられる。しかし、この提案には日本側にとって驚愕する内容が含まれていたことも事実である。文書の形式は「単なる提案」ということだが、日本国内における対米強硬論の高まりを冷静に分析していた米露側は、「この程度の内容でも日本側は必ず爆発するはずだ」と読んでいたはずだ。「飛んで火に入る夏の虫」という言葉がピッタリと当てはまるのが「ハルノート」受領後の日本だった。

どうみても、日本側は受け身だった。戦略的に策を進めた米露を甘く見てはいけなかった、というのが私の結論である。

手元(社) 滬友会発行の『東亜同文書院大学同窓会名簿』がある。20年程前に古書店で見つけ購入した「滬」とは上海の別称である。購入動機は高校時代の担任だったT先生が同文書院の41期生であったから。授業中おりに触れて学生時代の話をされた。例えば書院名物の「書院力ラス」とは、支那語(中国語)の四声(抑揚)の発声練習を寮生活の学生が朝一斉に「アーアー」練習するの鳴りの泣き声に似ている、と名付けられたそうだった。

大陸支那は広い。最低でも三つの言語を習得しなければならぬ、それは北京語、上海語、満洲語であり、これらは相互に全く通じない。平成元年に天安門事件が発生してデモの学生が戦車に轢き殺されるが、共産党政府はデモ鎮圧に北京語の通じない遠隔地の兵士を動員した。それは言葉が通じないから、兵士は逡巡することなく指揮官の命令に従い殺戮する。これは支那興亡4千年の宿痾(持病)である。

庄善は書院独特の「大旅行」である。「大旅行」とは卒業論文作成のため3、6ヶ月間、大陸各地を踏査して、その見聞を纏めて卒論とする。出発前、関東軍に出向き、旅費と護身用のプロローニング拳銃を貰うのが慣例であった。大陸のみならず東南アジア各地を旅する学生もいたが、これが後に日本軍のスパイ学校と見做される禍根を残すことになる。この卒論集は現実には日本陸軍や外務省の大陸理解に大きく貢献したのも事実である。大陸各地に点在するOBは訪れた後輩学生の面影をみるのが当然とされてきたが、旅先で麻薬や女に溺れて帰らぬ学生も少なからずあった、等々。

書院出身の著名人は多いが13期の「里見甫」は満洲の「阿片王」と呼ばれた。関東軍や蒋介石に阿片で稼いだ莫大な利益を私する事なく提供した怪人で、A級戦犯として東京裁判の法廷に立ったが、蒋介石の起訴反対で無罪放免された。晩年は京都に隠棲して男児が出来たが昭和40年に68才で亡くなった。その葬儀には時の佐藤栄作総理を始め、満洲の妖怪と形容された岸信介元総理などの満洲人脈の政財界人が多数香典を贈っている。また遺児の養育費協賛加帳にも上記の人達が名前を連ねている。(佐野慎一著「阿片王」)

T先生(陸軍中尉)は、敗戦によりB級戦犯容疑で逮捕される。B級の定義は戦時国際法における交戦法規違反行為、つまり部隊指揮官であった者が該当する。T中尉は語学将校であり戦時部隊を指揮したことは無い。同文書院卒の経歴でB級戦犯の烙印を押されたT中尉は公職追放令により山奥で炭焼き仕事に従事。教職に就いたのは講和条約発効後の昭和29年である。明治34年、公爵・近衛篤磨会長により上海に設立された「東亜同文会」は根津一・初代院長が「日支ノ英才ヲ教之、支那富強ノ本ヲ立テテ」と綱領に謳った。曲折はあったものの文部省の認可大学まで発展した東亜同文書院は昭和20年の敗戦により消滅したが幻の名門校と謂われる書院の学簿など愛知大学に保管されている。T先生は大陸に強い愛着を持っておられた事も相俟って校長退職後、中国に渡りボランティアで中国人に日本語を教えておられた。特に上海交通大学は同文書院の元校舎を使用しており、ここで10年近く講師を勤め、当時の江沢民・国家主席は交通大学出身だったので、先生は学生達に「江沢民は後輩だ」と言っておられる、と語っておられた。同文書院の綱領「支那富強ノ本ヲ立テテ」を実践された先生は、反日の江沢民でさえ後輩だと云って日中友好に腐心しておられる様子だった。

終戦(敗戦)70年に想う

編集長 新川 貞敏 (74才)

たのは講和条約発効後の昭和29年である。明治34年、公爵・近衛篤磨会長により上海に設立された「東亜同文会」は根津一・初代院長が「日支ノ英才ヲ教之、支那富強ノ本ヲ立テテ」と綱領に謳った。曲折はあったものの文部省の認可大学まで発展した東亜同文書院は昭和20年の敗戦により消滅したが幻の名門校と謂われる書院の学簿などは愛知大学に保管されている。T先生は大陸に強い愛着を持っておられた事も相俟って校長退職後、中国に渡りボランティアで中国人に日本語を教えておられた。特に上海交通大学は同文書院の元校舎を使用しており、ここで10年近く講師を勤め、当時の江沢民・国家主席は交通大学出身だったので、先生は学生達に「江沢民は後輩だ」と言っておられる、と語っておられた。同文書院の綱領「支那富強ノ本ヲ立テテ」を実践された先生は、反日の江沢民でさえ後輩だと云って日中友好に腐心しておられる様子だった。

大陸の言語を自在に操る先生は、南京大虐殺はあり得ないと語っておられた。当時の南京の人口は20万人くらいで、30万人虐殺など荒唐無稽だと。当時南京に居たアメリカの宣教師も虐殺などに言及していない。この歴史の証言者は平成12年永眠された。

戦犯はA級B級C級のランクに区別された。A級は東京裁判(極東国際軍事裁判)と呼ばれ東京市ケ谷(現防衛省)の陸軍士官学校講堂で開かれた。起訴罪名は「平和二対スル罪」「人道二対スル罪」など。B級は前述のとおり。C級は捕虜虐待などで主に下士官・兵が該当した。何れも軍事裁判でB級は海外各現地で裁かれた。それはインドネシア、フィリピン、マレーシア、ビルマなど東南アジア全域に及んでいる。逮捕された人達は三万六千とも云われその内の約千名が銃殺刑に処された。理不尽な事後法であり、杜撰な伝聞調査、虚偽の証言、通訳不在などで無実の罪を背負われたテラメナ裁判であったが、我が同胞は従容と禍(まが)つ神の裁きに服した。

A級戦犯裁判で7名の入道が絞首刑を宣告されたが特筆すべきは、A級戦犯の起訴日は昭和21年4月29日(昭和天皇誕生日)、処刑日は昭和23年12月23日である。この12月23日は当時皇太子であった今上天皇陛下の誕生日である。未来永劫日本人の記憶に刻み交知狡猾。東京・大阪の無差別大空襲、広島・長崎の原爆投下など無辜の市民大虐殺を棚上げして、なにが「人道二対スル罪」だと言いたい。勝てば官軍の、惻然に背馳するアングロサクソンの報復裁判を我々は忘れてはならない。

この「AVG」設立の目的は、日本との「宣戦布告なき戦争」を国府軍とともに遂行しようとするもので、米露政府は、まずドイツから対米攻撃をさせようという画策したがうまくいかなかった。次の策が日本から本格的な攻撃をさせることだった。我が国は、天皇陛下の御意向をくんで最後の最後まで戦争回避に努力したが、米露政府から「ハル・ノート」が提示されたことによつて「開戦やむなし」となったのである。したがって、戦争責任については、日本側だけが負うものではなく、米露政府の責任も追及されなければならぬと考えるものである。



前列右から6人目が吉川駐屯地司令



陸自今津駐屯地見学記

人生初の体験として、自衛隊の戦車(74式戦車)に乗せて貰うことになった。11月23日、勤労感謝の日、朝大阪駅前を出発、一路近江今津の自衛隊駐屯地へ向かう。53名が参加し、満員の観光バスが名神高速に入ろうとする。既に事故で渋滞している。情報が入った。急遽道路を第二京阪道路へと変更した。この道は順調に走り、滋賀県の湖西道路へと進んだ。この辺りに来ると紅葉も見られ見事な景色が続いた。その分観光客も多く道も混んで来た。

この日は気候も良く、暑くも寒くもない絶好の行楽日和だった。車中ではカッププーヒーを飲んだりしながら目的地へ向かった。その時、私は戦争について歴史について神妙に考えるとは思ってなかった。

お昼に到着したのは、今津の琵琶湖の端にある高い建物で、陽が燦々と射していた。今津サンプリングホテルだ。係の人がバスを誘導して玄関に着けた。一階奥の部屋にバイキング料

理が用意されていた。順番に料理を取り湖畔を眺めながら食事し、ワイワイガヤガヤと賑やかな昼食になった。白い御飯と炊き込み御飯が並べられていたが、炊き込み御飯が旨く、何杯もおかわりした。バスが遅れた分、食事の時間は少なかつたが皆満腹になり大いに満足した。

そこを出て駐屯地までは、わずかな距離だった。林の道を抜け、少し高台になったところに駐屯地があった。琵琶湖が眼下に見えて景色のいい所だ。警衛所の自衛隊員の方にバスの中から敬礼をして入っていった。先ず売店に行き(ヤマザキショップ)、30分間ほどお土産を買いウロウロした。迷彩服やリュックサック、靴などを見て廻ったが、欲しい物はウン万円もするので手が出せなかった。ここは厚生センター(食堂、クリーニング店、床屋さん、図書室)であり、全て豪華で至り尽くせりの施設だ。皆さん、それぞれの買い物を袋詰めしてバスに持ち込んだ。

午後1時から、今津駐屯地の沿革や、部隊の話をして貰えるようになっていた。部隊の中の大きな体育館で、広報隊員の方の説明が始り、ゆっくるとした口調で喋って頂きよく理解できた。途中から我々の質問にも答えて貰った。中でも戦車一台製造するのに、部品作りなどに何社くらい関係しているか?と逆質問されたとき、同行の赤穂氏(弟さんが元陸上自衛隊員)

が、戦車だけに千社でしょうと答えた。すると広報隊員の方が御名答、正解です、と言われたので皆大笑いだった。

さて、本番の戦車に乗る体験だ。戦車の後部の上に益踊りの櫓(やぐら)のように鉄パイプで囲われた人が乗る台がある。そこに10人位ずつ乗る。脚立を登って上にあがると結構高

く、見晴らしが良い。西agraウンドという広場を2周してくれる。普段は一周なのだが今日は客層も良く天気もいいのでサービスで2度回ると言われた、今回に限ってだそう。戦車は最高速度53kmで走るのが我々を乗せた場合はその半分以下のスピードで走った。それでも、帽子は飛ばされるは、足元がぐらぐらと揺れ、揺れ、揺れ。女性の中には言い顔して降りてくる人もいた。遊園地のジェットコースターに乗っているようだとも言っていた。急

発進や、急カーブの連続で確かに泡を吹かされた。

74式戦車は七百五十馬力だそう。重量も車などは比べようもなく、40屯近いという。高さも2m25cmあり、その上に櫓を組んであるのでかなり高い。見方によっては保育園児らをかためて乗せて、近くの公園などに連れて行く檻のような所に乗せられているのだ。排気ガスが下方から出て、巻き上がる砂塵も激しく、降りてくる頃には皆さんズボンが真っ白に汚れている。これも戦車搭乗体験の誇り(ホコリ)だろう。我々は最後に資料室に案内された。遺徳顕彰館といって、平屋の家屋の中に遺品や遺書などが並べられていた。戦争時の写真や軍刀、軍服などを見学していると、なぜかしらが引き締まってくる。親父も兵隊に行っていたので、親父に聞いた話とも符号する。又、最も残酷な弾丸で撃ち抜かれた鉄兜などを見て神妙になる。知覧から南の海に消えて逝った特攻隊員の遺書も展示されていた。若くして散り逝き、その遺書には天皇陛下万歳と、両親へそれませられた一日の旅は終わり、夕陽に染まった奇麗な駐屯地を、バスの車窓から眺めながら帰途についた。

海上自衛隊阪神基地もちつき大会・前列右から3人目が伊藤総監 (12月14日)

発射! 中部方面戦車射撃競技会・優勝は第3戦車隊(今津) (12月17日)

陸自八尾基地 11月16日 創立60周年記念行事見学



自衛隊父兄会京橋地区(井上勉会長)の企画で、11月16日八尾基地を訪問。ヘリコプター16機の編隊飛行パレードをマイイベントとするエアショー。フェスタ行事をマイクロバスで有志20名が参加見学した。

ついで信貴山山頂にある「のどか村」でブルーシートを敷き文字通り暖かい日差しを受けて、のどかに飲み食い懇談した。帰途、柏原のワイン工場

自衛隊京橋募集案内所の隊員3人も同行、随分とお世話を受けた。彼らの話を聞くと、今年の募集は極めて困難な状況にあり、当会員の皆様も応募に関する情報のアンテナを張り、応募者のキャッチと伝達にご協力をお願いします。

後編 集記

新年を迎えて旧総選挙も開票早々に結果が出た。この選挙に大義がない、アベノミクスは失敗などマスコミや野党は叫んでいたが、このタイミングで長期安定政権が発足したことは我が国にとって誠に喜ばしい。

今年第二次世界大戦終結から70年の節目を迎え、新年を迎えて旧総選挙も開票早々に結果が出た。この選挙に大義がない、アベノミクスは失敗などマスコミや野党は叫んでいたが、このタイミングで長期安定政権が発足したことは我が国にとって誠に喜ばしい。

総選挙の結果、民主国家での安定政権は負けた枢軸国の日本とドイツだけとなる。この節目の年に第二次世界大戦の負の遺産を清算する絶好の機会に強力安定政権が出来たことは慶賀と考える。懸念材料は連立を組む公明党の存在であろう。この公明党を牽制すべき次世代の党が惨敗した事は残念の極みだ。

我が国中興の祖と成り得る安倍総理しか見当たらない。この節目の年に諸悪の根源である東京裁判観を払拭し、国家の尊厳を確立し、自主憲法制定を求め、弊会は活動している事を、新年にあたり皆様に再認識をお願いする次第です。

(新)

死んでたまるか!!

料もろくなく消える「フコイダン」
薬天1位の大人気商品

フコイダンプロードリンク
15,000円+税 20ml×30本入

ビー・エイチ・ラボ
http://www.rakuten.co.jp/bh-labo/
0120-919-704
〒553-0006 大阪市福島区吉野4-19-10

謹賀新年

新春を迎え
皆様のご多幸を、
お祈り申し上げます

平成二十七年元旦



前衆議院議員

三宅博

真正保守のオビニオン紙
新聞『アイデンティティ』
発行人・主幹

葛目浩一

〒651-2135 神戸市西区王塚台三十五十二
電話・FAX 〇七七八九二八二六〇五

関西防衛を支える会 会長
(株)経営センター社長

濱野晃吉

〒542-0081 大阪府中央区南船場三十一番十一
心斎橋 大陽ビル
TEL 〇六六二四一〇二四
FAX 〇六六二四一七四八九

(株)阿波彌運送部

代表取締役
会長 **大畑可奈子**

〒537-0021 大阪府東成区東中本3-5-24
TEL 〇六六九七六〇七三二(代)
FAX 〇六六九七六〇七四六

元海上保安官

一色正春

十一月三日を「明治の日」に!

関西「明治の日」推進協議会

事務局 〒606-8126
京都府京都市左京区一乗寺宮ノ東町
十七詩仙ハイム四〇二
金子宗徳方

神洲正氣の會

理事長 **岡島茂雄**

〒666-0137 兵庫県川西市湯山台二一〇七二
TEL 〇七二七九三二五九三〇
FAX 〇七二七九三二五九四一

コンピュータソフト開発全般
(株)日本システム研究所

〒550-0014 大阪府西区北堀江一五五十二
四ツ橋新興産ビル11F
TEL 〇六六五三六一四七七一
FAX 〇六六五三六一三六一六
URL <http://www.nsr.ne.jp>
Email: nain@nsr.ne.jp

株式会社 **マツダスクリーン**

代表取締役 **松田清**
(関防会副会長)

〒599-8102 大阪府堺市東区石原町1丁123番地の2
TEL 072-258-0002
FAX 072-258-1281
URL <http://www.matsuda-screen.co.jp/>

◆旅のことなら何でも
お気軽にご相談ください◆

株式会社 浪速観光社

〒545-0052 大阪府阿倍野区阿倍野筋五二一三二一四
TEL 〇六六六五三二四一一
FAX 〇六六六五三二八七六
E-mail: nainvass@h6.dion.ne.jp

保険の窓口グループ
(株)ライフプラザパートナーズ

高田裕士

〒530-0017 大阪府大阪市北区角田町八番一
梅田阪急ビルオフィスタワー29F
携 帯 〇九〇三九七八一七九八六
TEL 〇六六三三三一九八八五
FAX 〇六六三三三一九九九五

関西防衛を支える会

事務局長 **前田稔**

勤務先 〒553-0006 大阪府福島区吉野四一九一〇
(連絡先) TEL/FAX 〇六四三〇二五二八七
携 帯 〇九〇三三八六〇八三三
E-mail: maedamin@yahoo.co.jp

衆議院議員

山田賢司

衆議院議員
自民党政調会長

稲田朋美

公益社団法人隊友会
大阪府隊友会

相談役 **三好榮治**

大東塾不二歌道会
大阪支部長

赤田正和

前衆議院議員

西村真悟

近畿偕行会
特攻勇士顕彰会

会長 **中一皓**

〒573-1106 大阪府枚方市楠葉一五八
TEL 〇七二八五〇一四二六
FAX 〇七二八五〇一四二六

関西防衛を支える会

監事 **梶川勝平**

〒599-8125 堺市東区大美野八六番地六
TEL 〇七二二二七六〇九三
FAX 〇七二二二七六〇九三

関西防衛を支える会

常任理事 **北島一憲**

〒584-0094 富田林市富美ヶ丘町一三一〇
TEL 〇七二二二五二八四

自衛官募集相談員
関西防衛を支える会

事業部長 **山下弘文**

皇室の弥栄を

ご祈念申し上げます。

釋迦郡文雄

企画・デザイン 印刷全般
南陽印刷株式会社

代表取締役 **河合雄一**

〒558-0055 大阪市住吉区万代三二二一五
TEL 〇六六六七八一三六六一
FAX 〇六六六七八一三六六一
E-mail: inf@nanyo-net.com